

酷暑去り、爽やかな気候の中 秋之祖先霊大祭厳粛に挙行

ご教話「不変の価値・自然に守られ、祖先よりの命を次世代へ」

ご参拝の教信徒の皆様、本日は秋之祖先霊大祭に、全国各地より、道の長手も一筋に、ようこそご参拝下さいました。

皆様の誠心は、必ずや大神様、各家のご祖先様方に届くものでございます。

「暑さ寒さも彼岸まで」と申しますが、今年の夏の厳しい暑さも、九月に入り大分影をひそめ、今日などは爽やかな秋晴れの日を授かりました。

扱、今年も新型コロナウイルスの影響で様々な活動がまだまだ自粛を余儀なくされています。



祭典後、ご教話の本部長様

ムードを煽る、偏った報道のおかげで、夏のお盆の帰省すらままならず、たまの一家団欒、家族団欒の機会を失い、こんなに寂しい夏はないでしょうか。

今回のコロナ禍で多くの方々がその影響を受けられたと拝察しますが、とりわけ、飲食に関わる方々への影響は多岐にわたります。

更に言うと「会食」、食事と共にするという、人と人が最も打ち解けやすい機会を失いかねません。

古来、私達の祖国日本では、食事を共にするということは、同じ仲間である事



誼を読み上げられご招霊。

を確認する、ある種の契約と見なされてきました。

この事は「古事記」の中で、イザナミ尊が亡くなった後に黄泉之国の食べ物を口にしてしまったので、現世には帰れないと表現されています。

皆様の身近な所では祭典の後の「直会」。これも重要な神事の一つで、神様へのお供えのお下がりを、参拝者が分け合って共に頂くことで、そのお徳を頂くという大きな意味があります。

また、かの有名な宮崎駿監督の映画「千と千尋の神隠し」の中で、神々の世界に迷い込んだ、主人公・千尋の体がだんだん透けて無くなりそうになるのを、その世界の食べ物を口にすることで食い止めることが出来た。

この表現などは、先に申した「古事記」のイザナミ尊の物語に着想を得ているのではと推察しています。

「食」は、日常生活における最大のコミュニケーション媒体」と、昨日の新聞で仰っていたのは、文化人類学者の石毛直道さんです。

現代の日本には核家族化、通勤・通学の時間差などで「孤食化」が進んでいます。

誕生日や記念日などの行事には、家族揃って同じ内



発行所 本館 宝生教大阪本部
大阪府西区北堀江3丁目10番
電話 06(6531)6722
FAX 06(6531)6152
© (非売品)

10月号

自家成立の
根源は和にあり
秩序の根源は
神祖崇敬より



参拝者各々、幣殿に上がり玉串奉奠

容の食事を楽しむことが大切と、石毛さんは独居老人が増える現代社会に警告してくれています。

人々が「食」というものを通じて同じ時間、同じ空間を共有するとき、何か特別な「絆」が生まれる経験をどなたもがされたことではないでしょうか。

家族や親族が一堂に会して団欒をするとき、そこにはきつと、亡くなられた身近なご祖先が目には見えないう魂として皆様のすぐそばで居られる事でしょう。

その為にも、日頃からご祖先を皆様の様に身近にお世話なすることが大切な事は、今更申し上げるまでもありません。

かの有名な司馬遼太郎先生は、著書「二十一世紀に生きる君達へ」の中で次の様に仰っています。

「昔も今も、また未来においても変わらないことがある。そこには空気と水、それに土などという自然があつて、人間や他の動物、さらに微生物にいたるまでが、それに依存しつつ生きていくというのである。自然こそ不変の価値なのである。」

(中略)

人間は自然によって生かされてきた。古代でも中世

祝祭日には必ず国旗を掲揚しましょう

寶生教 国旗掲揚運動

三五五

— 申込み受付 —

(下記期日以外も事務所にお尋ね下さい。)

三歳・五歳・七歳を無事に迎えられた喜びを大神様に感謝し、可愛いお子さんの健やかな成長と幸せを祈る、七五三参り。

ご家族おそろいで、ご参拝ください。

十一月十五日(日曜日)
正午 執行

「月並祭(十時)後」
※七五三詣お申込みは、教団事務所へ、十一月八日までにお願います。

治水事業は日本だけでなく、世界中どの国でも、政治を行う上で重要な事業のひとつであり、長い目で、広い視野で取り組まなければならぬ事業なのです。

最後に「嵐が吹けば桶屋が儲かる」ということわざがあります。このことわざ

は単に、風が吹くと桶が転がって割れるので桶屋が儲かる、という意味ではありません。

風が吹くと土ぼこりが立つて目に入り盲人が増える。盲人は三味線で生計を立てようとするから、三味線の胴を張る猫の皮の需要が増える。猫が減るとねずみが増え、ねずみが桶をかじるから桶屋が儲かる、ということなのです。

転じて、物事というのは巡りめぐるので、意外なところに影響が出るということなのです。

我々の日々の生活も同様で、目先のことばかりにとらわれず、先をよく見通し、広い視野で事に当たらねばなりません。

そのお力を授けて下さるのが、御教祖が遺された、寶生教の修行でございませう。是非修行日にも足繁く参拝され、正しい道を見抜く力をお互いに授かりたいと願う所でございます。

十月	月並祭	午後七時
一日(木)	御本宮遙拝式	午前九時
四日(日)	修行日	午前十一時、午後七時
八日(木)	修行日	午前十一時
九日(金)	教祖祭	午後七時
十日(土)	大祭準備	午後九時
十一日(日)	秋之例大祭	午前十時半
十五日(木)	月並祭	午後七時
二四日(土)	養老教会秋之大祭	午前十時半
二五日(日)	名古屋地区敬和会	午前十時半
三一日(土)	月並祭	午前十時
十一月一日(日)	西播教会秋之大祭	午前十時半
三日(祝)	御本宮月並祭	午前十一時半
八日(日)	御本宮遙拝式	午前九時
九日(月)	教祖祭	午前十一時、午後七時

出るので、是非ダムを建設してほしいと群馬県が国に要請したのははじまりです。

それから時を経て、完成したのは昨年のこと。そして今年の四月一日、ようやく運用が開始されました。

民主党政権当時、群馬県の「東の八ッ場」と並んで脱ダムの象徴とされたのが熊本県の「西の川辺川ダム」でした。

今年七月、熊本県の球磨川で氾濫が起き、六〇人を超える犠牲者を出しました。この球磨川も、昔からしばしば水害を起こす川で、ダムを建てようという国が提案しましたが、地元の人たちが反対したそうです。

その為、七月の氾濫を防ぐことができず、「川辺川ダム」が完成していたらここ

までの被害はなかった」と指摘や批判も少なくないそうです。

一方「東の八ッ場」は、先述の台風十九号襲来の際、このダムがあつたお陰で利根川中流域の水位が大幅に下がって、氾濫危機を救ったといわれています。

そして八ッ場ダムがもたらした恩恵は防災面だけではなくありません。地元 群馬県長野原町はこの夏、ダムを生かした観光に打って出ました。

「八ッ場ブランド」と銘打ち、湖面を走る水陸両用バスや、湖畔にキャンプ場などをオープンしました。

さていよいよ、という矢先、新型コロナウイルスの感染により、出鼻をくじかれたかに思われました。

しかし、いざ開始しますと、当初東京からの集客を当て込んでいましたが、外出自粛で首都圏からの客が見込めない中でも、群馬県内からの問い合わせが引きも切らず、盛況なのだそうです。

八ッ場ダムは、治水事業と観光事業の両面で成功したといえます。方や熊本県は水害を防ぐことができなかつた。どちらが良い悪いということではありません。

日本という国において水害は切っても切り離せない、昔からあることなので、どれ程昔からあるのかと云うと、なんと神話の時代にまで遡ります。

素盞鳴尊が退治したといわれるヤマタノオロチ。実はこの怪物は、山から流れ出る川の氾濫を表しているのです。

そのお力を授けて下さるのが、御教祖が遺された、寶生教の修行でございませう。是非修行日にも足繁く参拝され、正しい道を見抜く力をお互いに授かりたいと願う所でございます。



処暑を過ぎても尚、厳しい残暑の八月三十日(日)、恒例の夏の掃除が行われました。

午前九時の朝拝後、御本殿、修行殿、教務所や手水舎と手際よく掃除、各所、一段落すると、夏の間に延びた庭周りの草引きも各自、熱中症対策の水分補給は忘れずに、テキパキと怪我なく進み、予定通り午前中に終了、昼食を頂き解散となりました。

連日の酷暑の中、大勢の皆様のご奉仕、誠に有難うございました。

教会行事

玄関・手水舎も水洗いで清々しく

コロナ禍なれど、大勢でテキパキと、教会夏の掃除！

でも、自然こそ神々であるとした。」

私達の今ある生命は、自然の中で生かされている命。遙かはるか、気の遠くなる程の年月をかけて祖先達から受け継いだ大切なパトンなので。

今ある生命を大切に、また次の世代へと繋げて参りましょう。その為にも様々な事への感謝を忘れず、祖先祀りを共に仕えて参りましょう。

最後にになりましたが、本日の祖先大祭齋行にあたり、役員会では数日来、祭典齋行の協議を頂きました。婦人世話人の皆様におかれましては前々日より撒飯のお餅つきのご奉仕を賜り、宝寿会の皆様には、玉串謹製のご奉仕を賜りました。又当日早朝よりご奉仕頂きました総代はじめ各役員、有志の皆様にご心より御礼申し上げます。



祖霊殿に向い拝礼なさる祭主様

ご教話 神道は最も自然

月並祭 (9月15日)

扱、皆様は「大和言葉」をご存知でしょうか。日本語は、中国から入った漢語、欧米から入った外来語、そして大和言葉の、主に三種類で構成されています。大和言葉は、我々日本人の祖先が、古来使っていた言葉で、現代の日常会話ではあまり使いませんが、祝詞や俳句の季語などで使われることがあります。

その大和言葉が大変情緒があり美しいということに注目を集めています。どの様な言葉があるのかといえますと、例えば「秋田実」。これは稲穂のことです。他にも富士山の山閉じのことを、夏の間に人が入った山を洗い清めることから、「御山洗」と言ったり、残暑の季節、朝夕涼しく冷え込むことを「朝寒」「夕寒」といったりします。祝詞で使う大和言葉では、「道も狭に」という言葉もあります。これは道幅いっぱいという意味で、参拝者が大勢参拝されるという事です。

又身近なところでは、お手洗いのことを「雪隠」と言ったりもしますが、これも大和言葉です。元々日本は土葬の国です。亡くなると、ご遺体はそのまま土に葬るのが最初の姿です。火葬は平安時代頃にその記述が見られますが、メインはずっと土葬でした。庶民がお墓を貧富の差無く持てるようになったのは、江戸時代後期だと云われています。それまでは山や自分たちの田畑の片隅などに葬っていたそうです。江戸時代後期に、全ての人が亡くなると平等に弔いを受けることが出来ると定められ、庶民のお墓という概念が確立しました。明治に入ってから、コレラという疫病により多くの人が亡くなりました。その際、土葬では埋めきれないという事で、この頃から火葬が推奨され始めたのです。仏教では分骨という習慣があります。主に浄土真宗で行われる形式で、故人の喉仏などの遺骨の一部を寺に納めるという習慣です。

ご教話 祖先よりの神道精神を大切に 祭 祖 (9月9日)

本日、九月九日は「重陽の節句」です。日本では、奇数が陽数、偶数が陰数です。一から九までのうち、最も大きい陽数である「九」が重なっていることから、重陽の節句と呼ばれ、めでたい日であると云われます。そして九月は秋分の日、我々にとりまして大切な、

祖先霊大祭がございます。世間では「彼岸」という呼び方をします。彼岸は仏教用語で、三途の川の対岸のことで、春分の日と秋分の日、三途の川の幅が最も狭いので、あの世のご祖先を彼岸に供養しましょうというのが、仏教による説明です。

よく考えてみますと、これは大変不自然なことではないでしょうか。先程申しました様に、日本は土葬がメインだった国です。その国で、ご遺体の一部を別の場所へ納めるのは、不自然なことでは、火葬が盛んになってから、仏教界が仰ったことのように思えます。

ですから、日本という国に於いては、故人の遺骨は全てお墓に納めるといふ形が、古来日本人が行ってきた、最も自然な神道の姿なのです。そして、ご祖先を大切に祀りし続けることが、ご祖先の徳を授かり、ご守護をいただいで、各家の氏名の発展に繋がるわけがございます。

お墓は天と地を繋ぐ、命の連続を守っていくためのものでもあります。ですから、天から射す太陽の光も雨も当たり、草も延びる、自然の状態を保たないといけません。そして私達の命はご祖先から連綿と受け継がれ、今ここに存在するわけですから、命の繋がりを意識し、実感できるのが祖先祭ではないでしょうか。

として大神様よりご神示を受けられた「天祖中心祖先之教」。

大神様をそれぞれの心の生活の中心に据え、ご祖先も同様に、大切にお祀りすることが、我が教の根本です。

そしてこの祖先崇拝は、ご祖先の慰霊のためだけにを行うではありません。巡り巡って、実は今を生きる私達のため、そして未来のために行うのです。

ご祖先の積み上げてこられた徳のお陰で今があり、その徳を大切に次の世代へ繋いでいくのが、祖先崇拝なのです。

お墓に関連して、産経新聞に面白いエッセーが投稿されておりましたので、ご紹介致します。

「妻は言う。子ども三人育て上げ、皆自分の人生を真面目に生きていた。かわいい孫も四人生まれた。あなたの家に嫁に来て、ご両親の介護もして看取り、私の役目は終わった。いつ死んでも悔いはない。私は言う。」

子、孫はパパ、ママと慕ってくれるし、皆元気。これからは、二人で温泉旅行にでも行こう。妻はいまだき珍しい古風な六十六歳。清潔好き、料

御本宮 月並祭

毎月第一日曜日 午前十一時半より

理好き、洗濯好きの働き者。そのうえ、高価な貴金属、洋服に興味なく、家に静かにいることが好きな女性。図書館で借りた本を何冊も読む。コロナ禍でのストレスは妻にはない。先日、ゆつくり本を読むところが欲しいと言ったら、息子が安価な机を買ってくれました。座り心地の良い高価な椅子を買いに出るも買わず、台所の片隅に椅子を寄せ、小さく座って読書している。そこが落ち着くらしい。妻は本心を言う。死んだら骨は海に流すか、木の下に埋めるかにしてくれ。決して、あなたの家の墓には入れてくれないな、と厳格な義母との同居、さぞつらかったことも多くあったのだらうが、私にとっては悲しい話。これ、巷では当たり前前の話なのではいなか。というエッセーです。世間ではたまに聞くお話かも知れませんが、妻も申し上げるまでもなく、妻は夫のお墓に入るべきです。扱、話の最後に、皆さんは「因幡の白ウサギ」という神話はご存知でしょうか。ウサギが、海の向こうに渡りたいと思ひ、サメに「数を教えてあげるから並んで

ごらん」と言い、数を数えるふりをしながらサメの背中を利用して向こう岸へ渡っていきます。もう少しというところでだましていたことを言ってしまう、サメを怒らせて、皮を剥がれます。痛くて泣いていると、實生教の主祭神でもあり、大國主の命とそこの兄弟たちが通られました。一行は、因幡にいるヤガミヒメという美しい姫に、求婚に向かう途中でした。前を歩く意地悪な兄神たちは、「海水につかかって、天日で乾かすと良くなるよ。」と教えます。しかし、これは真つ赤な嘘。ウサギが言われたとおりにしますと、良くなるどころか、更に痛さが増しました。

があると言われております。神道の根源ともいえるのが神話「古事記」です。昔前は、神話なんて単なるおとぎ話、と言う人もいました。しかしそうではなく、事実に基づいているということが、少しずつ解明されつつあります。ですから、日本に於いて神道こそが日本人の歩むべき道であるということに、確信を持てるのではないかと存じます。

そこへ、兄神たちの荷物を持つて最後を歩く、大國主の命がやってきて、「がまの穂に包まって、日陰で静かにしていれば良くなるよ」と告げます。そうして言われたとおりになりますと、みるみるうちに元の通り毛が生えて、痛みもすっかり治りました。喜んだウサギは「ヤガミヒメはあなたを結婚相手に選ぶでしょう」と予言し、ウサギの言うとおり、ヤガミ

皆様こんばんは。九月に入りましてまだまだ厳しい残暑の中、ようこそご参拝下さいました。本日、九月一日は「防災の日」です。今から九十七年前の大正十二年九月一日関東大震災によって、大変大きな被害を受けました。以降、「天災は忘れた頃にやってくる」と諷われ、この九月一日を防災の日と定めたそうです。それから月日は流れまして、昨年を振り返りますと、十月十二日、台風十九号が襲来し、東日本を中心に甚大な被害を招いたことは、

未だ記憶に新しいかと存じます。関東地方を流れる川の一つに、利根川があります。利根川は「坂東太郎」の異名を持ち、日本三大暴れ川の一つに数えられます。台風十九号の際、この利根川中流の四つの県にまたがる地域で「広域避難」という取り組みを初めて行っただけです。これは、実際に洪水が起きてから避難するのはなく、間もなく洪水が起きるかも知れないという、少し前に住民に避難を促すというものです。

折には、約四万人の方が一斉に避難し、取り組みは無事に成功したのだそうです。今日の本題は、その利根川の更の上流にある、とあるダムのお話です。群馬県にある八ッ場ダムは、平成二十一年、当時、政権を握っていた民主党が建設中止を表明したことで話題となったダムです。八ッ場ダムをめぐると、国が建設に向けて調査に着手したのはなんと、昭和二十七年。利根川の上流で度々洪水が起き、中下流域で被害が

ご教話 正しい道を見抜く力を 修行を怠るなかれ 祭 月並 (9月1日)

山や自分たちの田畑の片隅などに葬っていたそうです。江戸時代後期に、全ての人が亡くなると平等に弔いを受けることが出来ると定められ、庶民のお墓という概念が確立しました。明治に入ってから、コレラという疫病により多くの人が亡くなりました。その際、土葬では埋めきれないという事で、この頃から火葬が推奨され始めたのです。仏教では分骨という習慣があります。主に浄土真宗で行われる形式で、故人の喉仏などの遺骨の一部を寺に納めるという習慣です。

よく考えてみますと、これは大変不自然なことではないでしょうか。先程申しました様に、日本は土葬がメインだった国です。その国で、ご遺体の一部を別の場所へ納めるのは、不自然なことでは、火葬が盛んになってから、仏教界が仰ったことのように思えます。

ですから、日本という国に於いては、故人の遺骨は全てお墓に納めるといふ形が、古来日本人が行ってきた、最も自然な神道の姿なのです。そして、ご祖先を大切に祀りし続けることが、ご祖先の徳を授かり、ご守護をいただいで、各家の氏名の発展に繋がるわけがございます。